

## 資源交換理論に基づく資源分類の再考

中 島 誠<sup>1)</sup>

### 問 題

本研究の目的は、対人相互作用の中で交換されている種々の資源を分類し、交換資源間の関連を検討することである。

一般的に交換といえば、「金」や「品物」といった具体的なもの同士のやり取りが連想される。しかし、Foa (1971) の資源交換理論 (Resource exchange theory) では、対人相互作用において交換される資源が「愛情」、「地位」、「サービス」、「情報」、「金銭」、「物品」の6種類に分類されており、具体性 (Concreteness) と個性 (Particularism) の2次元上に円環状に布置されることが示された (Figure 1)。さらに Foa (1971) では、他者からの攻撃行動に対して、被害者が類似した資源で報復を試みることが確認された。なお、その後の研究において、類似した資源ほど頻繁に交換されることや、そうした交換が好まれること、資源によって公正とされる分配方法が異なること、また、交換を行う当事者の関係性によって、用いられる資源や好ましい分配方法が異なることなどが確認されてきた (Donnenwerth & Foa,

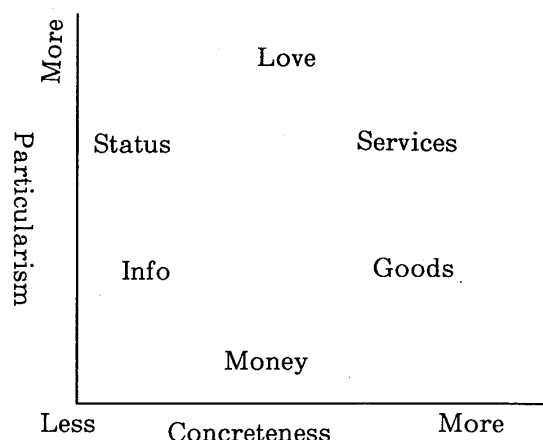


Figure 1 仮定された資源分類の構造  
(Foa, 1971, p347, Figure 1を参照に著者が作成)

1974; Foa, Converse, Törnblom & Foa, 1993)。一連の研究は、返報行動や報復行動が効果的に行なわれるための原理を示している点で重要である。

しかしながら、こうした知見が導出された過程には、いくつかの問題点が考えられる。第一に、ある行動が複数の資源としての意味を持つ事がほとんど考慮されていない点である。例えば日常生活では、親や友人など親密な他者から物を受け取ることが容易に観察され、この行動は資源分類における愛情と物品の両方の意味を持つと考えられる。ではこうした場合にはどのような資源を用いた返報、報復行動が適切なのだろうか。これまで意味の重複が指摘されることがあったが (Foa & Foa, 1974)、資源交換理論に基づく多くの研究は6つの分類という枠組みを前提とし、各資源を代表するような行動のみを取り出して研究が進められてきたため、こうした疑問への予測が困難である。そこで本研究では、まず探索的に日常生活における相互作用をとりあげて分類し、資源の様相を記述する。その上で、日常実際に行われている交換行動と理論との整合性について考察を行う。

第二の問題点としては、各資源間の関連について一致した見解が得られていないことが挙げられる。類似した資源ほど交換がされやすいことが資源交換理論の骨子であるため、交換資源の構造に関する検討は必要不可欠である。そもそもの資源分類は認知発達の考察から得られたものであり (Foa & Foa, 1974)、それを実証的に検討したFoa (1971) の研究では、個人からある種類の資源を奪い、その後どのような資源を用いて報復を行うかが尋ねられ、それらの一致の程度などから分類がなされた。しかし、Brinberg & Castell (1982) は、こうした手法に基づく資源分類が、多変量解析の手法に基づいていないという問題点を指摘し、多次元尺度法によって、二次元上に6つの資源の布置を求めた。その結果ではFoaの予測した布置が一部支持されたのみで、「愛情」と「金銭」が近接するなどの差異が確認され、回答者である学生にとっては金銭が非常に重要な価値を持っていたのではないかと考察された。また、Brinberg & Ganesan (1993) においては、様々な資源の特徴を表

1) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程 (後期課程)

す形容詞対を用いてSD法による評定が行なわれ、探索的因子分析によって、具体性と個別性のほかに利用可能性の次元が見出された。こうした指摘があるにも関わらず、これら研究以降は資源間の関係を直接的に検討した研究が見当たらない。そのため本研究では、この関係性について多次元尺度法を用いた分析を行い、構造を再検討する。検討に際しては、本研究の一部である資源分類の結果を用い、理論が現実の交換行動に適用可能か検討する。

なお、日本において資源交換理論を検討した研究はほとんど見られず、その多くは欧米を対象に行われたものである。国際比較を行った先行研究ではFoa, Salcedo, Törnblom, Gaarner, Glaubman, & Teichman (1993) があり、アメリカ、イスラエル、スウェーデン、フィリピン、メキシコ系アメリカ人といった母集団の間では、一貫して理論的予測が支持された。しかし他方で、アメリカとスウェーデンを対象に調査を行なったTörnblom, Jonsson, & Foa (1985) は、資源の具体性と資源分配方法の関連が国によって異なることを報告しており、必ずしも理論が普遍的に適用できるものとは言い切れない。こうした観点から、理論の普遍性を検討する意味でも、本研究は有意義だと思われる。

## 研究1：日常的に用いられる交換資源の分類方法

**調査対象者** 大学生49名（男性15名、女性34名、平均年齢19.93歳）

**手続き** 質問紙調査を行った。質問は1) 日常場面の相互作用を想起して「誰に」、「何をしたか」について、想起できるものを箇条書きで自由に記述するように求めるものと、2) 1) で回答した行動が、Foa (1971) による6種類資源の特徴をどの程度有するかについて「全く当てはまらない(1)」から「かなり当てはまる(5)」

までの5件法での評定を求めたものの2つであった。なお後者については、あてはまりの判断基準として、著者が先行研究より翻訳した6種類の資源の定義を提示した (Table 1)。

## 結果

自由記述より782の行動が得られた。なお、以下の分類作業は社会心理学を専攻する大学院生2名で行なわれた。

**行動対象** 資源の性質について、とりわけ個別性の高い資源は人間関係に依存して評価が変わることが指摘されている (Foa & Foa, 1974)。そこで分類の第一段階として、行動対象の分類を行った。記述内容の類似性から、対象は友人 (38.87%)、家族・親類 (21.48%)、知人 (部活、サークル仲間、職場の同僚など) 21.22%、他人 (12.14%)、恋人 (5.62%) に分類された。資源の全体的な特徴を検討するため、各対象について資源への当てはまり評定の平均値を算出したものを Table 2 に示す。特徴として、交換資源である愛情を示す値について、家族で  $M = 4.00$  ( $SD = 1.04$ )、恋人で  $M = 4.64$  ( $SD = 0.74$ ) と一貫した高得点が見られ、いかなる行動においても愛情が伴うことが示された。また、知人を除くほとんどの対象において地位を示す値は低かった。

**行動内容** 上記の結果より、資源の意味に極端な多重性が見られた家族と恋人、そして分類不明の回答については、行動内容の分類が不適と判断した。それらを除いた565の回答を他者一般との資源交換と捉えて分類を行った。1) 回答内容の類似性、2) 各資源へのあてはまりの評定値、3) 先行研究との比較の3基準から分類を行った。

回答内容の類似性から20カテゴリに分類された (Table 3)。次に内容、評定値を参考に先行研究における分類との比較が行われた (Table 4)。既存の6分類

Table 1 交換資源の定義と具体例

愛情	親密さや、愛情、世話を示す行為で、暖かさや心地よさを伴う 例 ・抱きしめる ・世話をする
地位	威信、尊敬、注目するか否かなどの判断を伝えること 例 ・ほめる ・尊敬の意を示す ・権力的な立場へと推薦する
サービス	労働者の立場から他者への「人」の身体的な働きかけ 例 ・パソコンの修理をする ・掃除をする
金銭	お金、通貨の譲渡や、それらを媒介とした行動 例 ・お金を使う ・誰かのためにお金を稼ぐ
情報	助言や意見、示唆、啓発などを伝えること 例 ・アドバイスや指導をする ・本や商品について紹介する
物品	有形の製品、物品、資源の譲渡やそれらを媒介とした行動 例 ・物品を譲る ・誰かのために物品を作る

資 料

Table 2 各行動対象における資源分類の評定値

	愛情	地位	サービス	金銭	情報	物品
	M (SD)					
友人	3.91(1.12)	1.56(0.95)	1.90(1.32)	1.86(1.38)	2.81(1.61)	2.37(1.66)
家族・親類	4.00(1.04)	1.54(0.94)	2.54(1.59)	1.76(1.35)	2.27(1.58)	2.42(1.71)
知人	3.39(1.31)	2.55(1.55)	2.30(1.51)	2.16(1.54)	3.17(1.73)	1.85(1.41)
他人	2.34(1.43)	1.75(1.22)	2.38(1.68)	1.97(1.54)	2.74(1.76)	1.91(1.48)
恋人	4.64(0.74)	1.86(1.18)	1.93(1.32)	2.18(1.42)	2.30(1.62)	2.25(1.64)

Table 3 行動内容の分類と資源分類の評定値

カテゴリ名	度数	愛情	地位	サービス	金銭	情報	物品
		M (SD)					
遊び, 外出	62	3.95(0.98)	1.52(0.95)	1.59(1.05)	2.77(1.59)	2.68(1.35)	1.84(1.22)
				回答例	・買い物に行った	・カラオケに行った	
連絡	50	3.92(1.18)	1.74(1.23)	1.31(0.77)	1.24(0.59)	3.88(1.39)	1.40(0.95)
				例	・電話した	・メールを送った	
物品提供	48	4.00(1.20)	1.38(0.89)	2.42(1.56)	2.54(1.52)	1.73(1.32)	4.50(1.03)
				例	・お菓子をあげた	・プレゼントを贈った	
会話, 雑談	43	3.56(1.45)	1.91(1.15)	1.49(1.05)	1.26(0.82)	4.16(1.25)	1.33(0.84)
				例	・話した	・雑談した	
質問, 回答	39	2.85(1.20)	1.79(1.22)	2.23(1.53)	1.62(1.25)	4.44(1.05)	1.69(1.28)
				例	・道を教えた	・質問に答えた	
物品貸借	31	3.19(1.22)	1.39(0.76)	2.29(1.51)	1.13(0.56)	1.87(1.43)	4.68(0.60)
				例	・ノートを貸した	・本を借りた	
挨拶	24	3.75(1.19)	2.46(1.53)	1.92(1.21)	1.29(0.62)	2.13(1.42)	1.38(0.82)
				例	・会釈した	・挨拶した	
相談	20	4.10(0.97)	1.79(1.03)	2.16(1.34)	1.42(0.96)	4.11(1.20)	1.26(0.73)
				例	・相談に乗った	・悩みを聞いた	
手伝い	17	3.41(1.33)	2.12(1.41)	3.71(1.40)	1.82(1.38)	2.06(1.64)	1.65(1.17)
				例	・仕事を手伝った	・実験に参加した	
仕事	17	1.94(1.25)	1.59(1.06)	2.88(1.73)	2.65(1.87)	3.29(1.72)	2.76(1.82)
				例	・打ち合わせした	・チラシを配った	
購買	13	2.15(1.68)	1.08(0.28)	2.15(1.82)	4.31(1.11)	1.69(1.32)	2.92(1.75)
				例	・チケットを買った	・注文した	
意見, 議論	13	3.23(1.69)	2.00(1.29)	1.15(0.55)	1.69(1.32)	3.85(1.34)	1.00 0
				例	・文句を言った	・議論した	
代理	12	3.58(0.90)	1.92(1.24)	3.58(1.38)	1.67(1.37)	1.75(1.06)	2.92(1.88)
				例	・プリントを取ってきた	・席を取ってもらった	
訪問, 招待	11	3.17(1.69)	1.38(0.71)	2.33(1.61)	3.08(1.69)	2.08(1.47)	2.88(1.54)
				例	・家に招いた	・家に泊まった	
譲る	11	3.27(1.19)	1.91(1.22)	2.73(1.42)	1.18(0.60)	1.18(0.60)	1.18(0.60)
				例	・席を譲った	・道を譲った	
おごり	8	4.38(0.52)	2.25(1.49)	2.63(1.77)	4.63(0.52)	1.75(0.89)	3.50(1.69)
				例	・ご飯をおごった	・食事をおごった	
金銭貸借	8	2.88(1.81)	1.38(1.06)	1.38(1.06)	4.00(1.85)	1.63(1.19)	2.63(2.00)
				例	・お金を返した	・お金をかりた	
励まし	6	4.67(0.52)	3.17(1.83)	1.33(0.82)	1.00 0	4.00 0	1.00 0
				例	・悩みを聞き励ました	・励ました	
課題提出	6	1.33(0.52)	3.33(1.21)	1.17(0.41)	1.00 0	4.00(1.55)	2.83(2.04)
				例	・レポートを出した	・レポートを書いた	
ほめる	3	4.67(0.58)	2.67(2.08)	1.33(0.58)	1.00 0	2.33(1.53)	2.00(1.73)
				例	・ほめた	・ほめられた	

Table 4 先行研究で用いられた資源分類の代表例<sup>a)</sup>

愛情		地位		サービス	
愛撫	fondle	尊敬	respect for his talent	使い	run errand for you
キス	kiss	信頼	confidence	掃除	clean something
好意	I like you	権威	authority	修理	fix a car
楽しみ	enjoy	ほめる	praise	手伝い	help
抱擁	hug	威信	prestige		give energy for another
世話	care	賞賛	admiration		assist
友情	friendship	励ます	encouragement		
友情	camaraderie	是認	accomplishment		
一体感	togetherness				
金 銭		情 報		物 品	
現金	give cash	講義	tell about a lecture	提供	give objects
稼ぐ	earn money for	本	tell about a book	製品	give product
費やす	spend money on	情報	give new information	商品	give goods
貨幣	currency	事実	give facts	雑貨	give groceries
	token	意見	opinions		give material
	coin	教育	instruction	空間	keep space
		議論	discussion		

a) Foa, Converse, Törnblom, & Foa(1993),に掲載される複数の研究から、調査に使われていた項目を引用。

と同様に確認されたものとして、愛情では「遊び、外出」「挨拶」「ほめる」「譲る」、地位では「励まし」「課題提出」、サービスでは「手伝い」「代理」、情報では「相談」「連絡」「会話、雑談」「質問、回答」「意見、議論」、金銭では「購買」「おごり」「金銭貸借」、物品では「物品提供」「物品貸借」がそれぞれ該当するものと判断された。ただし、本調査で得られたいずれの分類も、評定値では単一のカテゴリに高得点を示すことが少ないという特徴があり、Table 3に示された20分類のうち、約半数の10分類が複数のカテゴリに高い得点を示していた。さらに、既存の分類のいずれにもあてはまらないものとしては「仕事」「訪問、招待」が確認された。

### 考 察

行動対象の約7割は親しい他者との間で行なわれており、それ反映して多くの行動に愛情が伴っていた。これは親密な関係において個別性の高い資源である愛情が多く交換されると述べた Törnblom and Nilsson, (1993) の知見と一致する。しかし、本研究の結果からは、実際には愛情のみが交換されるのではなく、あらゆる交換資源に愛情の意味が付与されると考えた方が妥当であろう。これは、文脈を切り離して各資源を代表する行動のみを用いて検討するという、先行研究の手法では見いだされない知見である。

行動内容の分類については、その分析対象の約8割が、

少なくとも知人か、それ以上の親しい他者であった。日常の行動は、概ね Foa (1971) の枠組みに基いて分類可能であった。先行研究と比較すると、ほめることが地位ではなく愛情と捉えられたこと、全体的に地位の交換が見られなかったこと、サービスについて高い評定値が得られなかったなどの差が確認できる。地位は報告数が少なかったことから、大学生にとっては比較や競争を経験する事態が少なく、尊敬や賞賛などが見られなかった可能性がある。また、「手伝い」や「代理」の得点が低い点について、個々の評定値から判断すると、同じ内容でも単純な愛情のみから「手伝い」を行っていることがあり、これが原因だと考えられる。「仕事」が、サービスに分類されなかった理由についても、個々の評定値から、サービスと考えるか報酬を伴う労働と考えるかで判断がばらついたことが原因と考えられる。

行動の多義性について、「相談」が愛情と情報の価値を持ち、「おごり」が愛情と金銭の価値を持つように、ある一つの行動をとっても、実際には文脈や対人関係の影響を受けて愛情との関連が生じることが明らかになった。対人関係と資源交換理論の関連を検討した Törnblom & Nilsson (1993) では、親密な関係においては個別性の低い金銭などの資源があまり好まれないことを示している。しかし本研究の結果からは、単純な金銭や物品の意味を持つ資源交換は現実的に生じにくく、行為には常に愛情や誠意などが付加されていることが読

み取れる。こうした文脈の効果は職場を対象とした Berg & Wiebe, (1993) の研究でも確認されている。そこでは金銭に関する行動が多く得られたことや、職場内での集団に参加している個人では、参加していない個人よりも愛情に関する行動を多く挙げたことなどが報告された。先行研究では親しい関係を扱ったものが多いが (e.g., Blieszner, 1993; Cate, Lloyd, & Henton, 1985; Rettig, Danes, & Bauer, 1993), 交換の実情や認知の差を検討するには、それ以外の様々な場面に目を向けてゆくことも重要となるだろう。今後、日常生活への応用については、現実の様相を反映し、対人関係の影響を考慮に入れた解釈を試みる必要がある。

## 研究2：多次元尺度法を用いた資源の構造分析

### 方法

**調査対象者** 大学生及び専門学校生156名で（男性25名、女性131名、平均年齢18.99歳）、研究1とは異なる対象が回答した。なお、29名の回答には不備が見られたため、以下の分析からは除外した。

**手続き** 質問紙調査を行った。質問項目は研究1の結果を反映させ作成した。まず、各資源を代表する出現頻度の多い項目2つを選出し、表現は出来るだけ簡素にして文脈を排除したものを、能動態で記述した。結果、6種類に各2項目ずつ、計12項目が選出された (Table 5)。

次に分析で必要となる12の行動間の類似度を測定するため、2項目を1対とする全ての組み合わせ (144対) の項目対を作成した。回答は、各項目が示す内容について「全く似ていない (1)」から「大変よく似ている (7)」までの7件法で求めた。また実施に際しては、調査対象者の負担を考慮し、48項目からなる質問紙を3種類用意していずれか一つのみ回答を求めた。

### 結果

**交換資源の空間布置** 12の資源に対する類似度評定を

多次元尺度法により分析した。適合度 (Kruskal の  $Stress = .18$ ,  $RSQ = .83$ ) 及び、解釈可能性から3次元解を採用した。Figure 2は分析結果を第1, 第3次元からなる2次元空間に表現したものである。まず、第1次元は「愛情」、「地位」、「サービス」の位置と「情報」、「金銭」、「物品」の位置で対を形成していることから個別性の次元とした。第3次元では「サービス」、「物品」と比べて、「情報」「地位」の布置が離れるという対を形成していることから具体性の次元とした。第2次元は「地位」、「サービス」、「情報」に比べて「金銭」、「物品」のウェイトが高い。Brinberg & Ganesan (1993) の研究では、先行研究に見られなかった資源の利用可能性次元を見出しており、「金銭」の利用可能性が低いことや、利用可能性が低いと知覚される資源が「金銭」、「物品」を受け取った場合の返報手段として選ばれやすいことを示した。この知見をうけ、本研究でも第2次元を利用可能性の次元とした。

### 考察

多次元尺度法の結果得られた資源の布置や次元は、

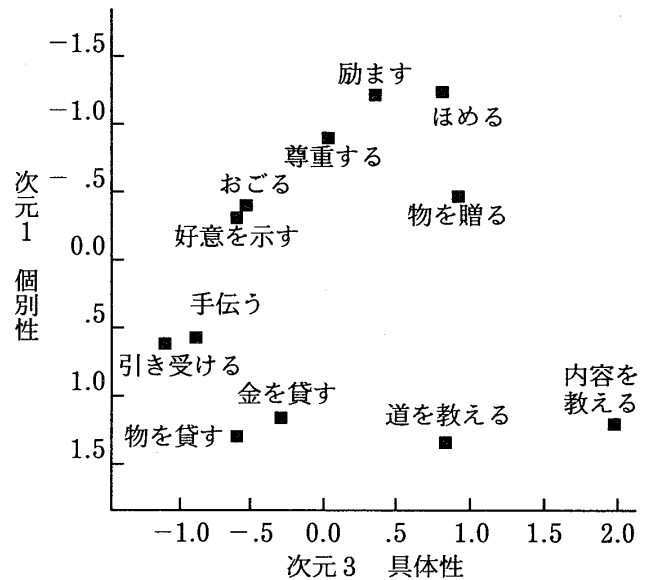


Figure 2 多次元尺度法による交換資源の布置

Table 5 研究2で用いられた代表的行動

資源	行	動
愛情 <sup>a)</sup>	好意を示す	努力や成功をほめる
地位 <sup>a)</sup>	励ます	立場を尊重する
サービス	仕事を手伝う	依頼、用事を引き受ける
情報	試験の内容を伝える	道や場所を教える
金銭	お金を貸す	食事などをおごる
物品	持ち物を貸す	品物を贈る

a) 研究1では愛情を示す具体的内容と、地位を代表するのに十分な行動は得ることができなかつたため、先行研究を参考にして項目を加えた。

Foa (1971) や Brinberg & Ganesan (1993) による仮説的な資源の分類を概ね支持していた。本研究においても、理論の普遍性については一応の支持が得られたと言える。

Foa (1971) の資源交換理論と不一致の点としては、「金銭」や「物品」において、同一資源にも関わらず項目間の類似性が低いこと、さらに「愛情」と「金銭」、「物品」の一部項目が類似した資源として知覚されたことが挙げられる。「愛情」と「金銭」の近接は Brinberg & Castell (1982) の調査でも得られており、金銭が愛情と同様に貴重な資源であると解釈されていた。しかし、実際には金銭の重要性ではなく、他者のためにお金を使うという行為が、愛情に基づく行為だと考えられたという解釈の方が妥当だろう。これは「おごり」という行動が、愛情と金銭の両方の意味を含むという研究 1 の結果からも裏付けられる。学生と金銭的に余裕のある社会人などを対象に価値観を問い、改めて比較、検討することも可能であろう。

行動が資源をどれだけ代表しているか、もしくはある行動が多義的な意味をもっているかという議論は、資源交換理論の発展にとって非常に重要である。本研究の結果は「金銭」と「愛情」そのものの本質的な比較から得られたというよりも、それら資源を媒介した行動の分類結果から得られたものと理解しておく必要がある。このことは、本研究の結果において、「金銭」や「物品」を貸す行動では「愛情」との類似性が低くなっていることから指摘できるだろう。「金銭を貸す」行為と「おごり」行為のどちらが「金銭」という資源のそのものの性質を表現しているのかについて、本研究からは結論を出せない。しかし、日常生活における行動を取上げた場合には、文脈を加味した行動の意味づけを行なう必要がある。

今後は、交換対象や状況要因を統制した上で刺激を提示して検討すべきである。また、適切な資源の交換ができないと満足感を得ることできないという知見があるように、個人のコミュニケーションや適応に焦点をあてた応用研究にも目を向けるべきであろう。Foa & Foa (1974) が発達における般化と弁別の問題から資源分類を論じたように、個人が行為自体の意味を適切な資源として解釈する能力や認知プロセスについて検討することが望まれる。

## 引用文献

- Berg, J. H., & Wiebe, F. A. (1993). Resource exchange in the workplace: Exchange of economic and interpersonal resources. In U. G. Foa, J. Converse Jr., K. Y. Törnblom, & E. B. Foa (Eds.), *Resource theory: Explorations and applications*. San Diego, CA, US: Academic Press, pp. 98-122.
- Blieszner, R. (1993). Resource exchange in the social networks of elderly women. In U. G. Foa, J. Converse Jr., K. Y. Törnblom, & E. B. Foa (Eds.), *Resource theory: Explorations and applications*. San Diego, CA, US: Academic Press, pp. 67-79.
- Brinberg, D., & Castell, P. (1982). A resource exchange theory approach to interpersonal interactions: A test of foa's theory. *Journal of Personality and Social Psychology*, 43, 260-269.
- Brinberg, D., & Ganesan, S. (1993). An application of foa's resource exchange theory to product positioning. In U. G. Foa, J. Converse Jr., K. Y. Törnblom, & E. B. Foa (Eds.), *Resource theory: Explorations and applications*. San Diego, CA, US: Academic Press, pp. 219-231.
- Cate, R. M., Lloyd, S. A., & Henton, J. M. (1985). The effect of equity, equality, and reward level on the stability of student's premarital relationships. *Journal of Social Psychology*, 125, 715-721.
- Donnenwerth, G. V., & Foa, U. G. (1974). Effect of resource class on retaliation to injustice in interpersonal exchange. *Journal of Personality and Social Psychology*, 29, 785-793.
- Foa, U. G. (1971). Interpersonal and economic resources: Their structure and differential properties offer new insight into problems of modern society. *Science*, 171, 345-371.
- Foa, U. G., Converse, J., Jr., Törnblom, K. Y., & Foa, E. B. (Eds.) (1993). *Resource theory: Explorations and applications*. San Diego, CA, US: Academic Press.
- Foa, U. G. & Foa, E. B. (1974). *Societal structures of the mind*. Springfield, Ill.: Thomas.
- Foa, U. G., Salcedo, L. N., Törnblom, K. Y., Gaarner, M., Glaubman, H., & Teichman, M. (1993). Interrelation of social resources: Evidence of pancultural invariance. In U. G. Foa,

- J. Converse Jr., K. Y. Törnblom, & E. B. Foa (Eds.), *Resource theory: Explorations and applications*. San Diego, CA, US: Academic Press, pp.57-64.
- Rettig, K. D., Danes, S. M., & Bauer, J. W. (1993). Gender differences in perceived family life quality among economically stressed farm families. In U. G. Foa, J. Converse Jr., K. Y. Törnblom, & E. B. Foa (Eds.), *Resource theory: Explorations and applications*. San Diego, CA, US: Academic Press, pp.123-155.
- Törnblom, K. Y., Jonsson, D., & Foa, U. G. (1985). Nationality, resource class, and preferences among three allocation rules: Sweden vs. USA. *International Journal of Intercultural Relations*, 9, 51-77.
- Törnblom, K. Y. Nilsson, B. O. (1993). The effect of matching resources to source on their perceived importance and sufficiency. In U. G. Foa, J. Converse Jr., K. Y. Törnblom, & E. B. Foa (Eds.), *Resource theory: Explorations and applications*. San Diego, CA, US: Academic Press, pp.81-96.

(2006年9月29日 受稿)

ABSTRACT

A Reconsideration of Resource Exchange Theory and  
Categorization of Resources.

Makoto NAKAJIMA

Although resource exchange theory proposed that interpersonal resources could be classified into six categories?love, status, goods, money, information, and services?only few studies have detected the dimensions underlying the resource categories by using scaling techniques. In addition, practically every study that examined the resource exchange theory had been conducted in the West. This study aimed to categorize exchange resources among the Japanese. In study 1, in order to identify the representatives of these resources, forty-nine undergraduates were asked to respond freely to questions about behaviors that they were able to recall. In study 2, a total of 156 undergraduates were asked to rate the similarity of all possible combinations of these representatives' pairs.. The data were analyzed using multidimensional scaling method, and a three-dimensional solution was used to represent the set of rating scales. Of the three dimensions, two were consistent with the original resource exchange theory. The third dimension was construed availability. Furthermore, these results were affected by the categories and the manner in which the resources were treated. The findings of this study indicate that one resource has several meanings. The implications for the possible applications of the theory were discussed.

Key Words: resource exchange theory, resource categories, representatives of resources